【財務運営の実績に関する評価】

令和7年度　事業経営評価

団体名	（公財）大阪国際平和センター	所管所属名	教育委員会事務局

中期目標

中期目標期間

令和７年４月1日から令和12年３月31日までの５年間

財務運営の実績に関する評価(財務運営に関する事項)

年度計画達成状況

指標Ⅰ	平和寄金収入の確保				
	R7	R8	R9	R10	R11【最終】
目標値	956千円				
実績値	1,522千円				
参考：中期計画目標値	956千円	964千円	968千円	969千円	973千円

指標Ⅱ	入館料収入の確保				
	R7	R8	R9	R10	R11【最終】
目標値	4,163千円				
実績値	4,664千円				
参考：中期計画目標値	4,163千円	4,384千円	4,477千円	4,570千円	4,663千円

外郭団体の自己評価

中期計画の目標達成状況【当該事業年度】	ア	ア：達成 イ：未達成（計画の見直しは不要） ウ：未達成（計画の見直しが必要）

当該事業年度の指標及び目標に基づく評価並びに当該評価を踏まえた**団体**の総合的な評価

指標Ⅰの平和寄金収入の確保については、寄附金に関する広報活動に加え、戦後80年を祈念した特別展示や平和祈念事業の実施等により入館者が増加し、当館の平和に対する取り組みが評価されたものと認識している。
指標Ⅱの入館料収入の確保については、上述の戦後80年特別展示等の取組に加え、大阪・関西万博開催に伴う外国人来館者の増加を見込み、展示解説の多言語化等の受入環境を整備するとともに、SNSを活用した情報発信等の取り組みを進めた。結果として、入館者数が平成25(2015)年のリニューアル以降過去最高を更新し、目標を達成することができた。

最終目標(中期計画)達成に向けた課題及び課題解消に向けた次年度以降の取組について

平和寄金収入の確保については、その趣旨（企画事業・特別展示等の原資の一部となること）や税法上の優遇措置についてあらゆる機会を通じてＰＲし、寄付金の増加を図る。また、入館料収入の確保については、小中学生等の無料入館者が75%を占める特性から、有料入館者の集客が重要であることから、引き続き、集客力のある企画展示やSNSを活用した広報活動を充実させるとともに、老朽化に伴う施設改修の計画的実施により、来館者の安全性と利便性の向上を図り、入館料収入の確保を図る。

専門家の評価

公認会計士、税理士その他の財務に関する専門的な知識及び経験を有する者の意見

限られた財源の中、国事業等を活用した自主財源を確保し、戦後80年を冠した特別展示をはじめとする創意工夫を凝らした各種事業を展開するとともに、SNSを活用した広報活動の強化により、リニューアル以降、過去最高の入館者数を更新し、寄附金収入も確保できていることは評価する。今後とも、物価高騰による運営経費の増嵩が見込まれる中、必要な財源確保に向け、大阪府、大阪市とも連携を強化し、入館料収入の増加に向けた取り組みを充実させるとともに、老朽化する施設の改修や運営体制の整備を図りつつ、来館者サービスの一層の向上にも努められたい。

市の審査

中期計画の目標達成状況【当該事業年度】	ア	ア：達成 イ：未達成（計画の見直しは不要） ウ：未達成（計画の見直しが必要）

「外郭団体の自己評価」に対する審査結果

戦後80年を祈念した特別展示等の特色ある企画事業や、展示解説の多言語化等の受入環境の整備等を実施し、入館者総数が過去最高を記録した結果、指標Ⅰ、Ⅱとも目標を上回る実績を出していることや、次年度以降の取組については入館者数増加に向けた企画や広報を行うとともに、老朽施設の改修を計画し来館者の安全性と利便性の向上を図る等、分析も適切であることから、自己評価については妥当である。

市の評価

当該事業年度の指標及び目標に基づく評価並びに当該評価を踏まえた**本市**の総合的な評価

平和寄金については、戦後80年にあたる節目の年にちなんだ事業の実施により平和への意識が高まった結果、来館者や戦没者遺族等からの寄附が多く寄せられ、目標を達成することができた。また、令和７年度は戦後80年を祈念した特別展示や平和祈念事業を行うとともに、大阪・関西万博開催による来場者数の減少が懸念されたが、万博を好機と捉え、訪日外国人客に向けた展示解説の多言語化を行うなど、積極的に有料入館者の獲得に向けた取組を実施し、目標を達成できたことは評価できる。引き続きニーズに即した魅力ある事業を実施し、有料入館者の増加につなげることで、収入の安定確保に努められたい。

助言等及び講ずるよう求めた措置の内容【大阪市外郭団体等への関与及び監理に関する条例第７条第５項】（※必要な場合のみ）

なし